

「林業試験場」から「林業研究所」へ、 今は昔のこと

一 「林業試験場」から「林業研究所」へ

現在の「林業研究所」という名称は、平成二十一年四月、地方独立行政法人青森県産業技術センターとして新たなスタートを切ったときに改称したものです。それ以前は、昭和三十六年十二月の組織発足以来四十七年間「青森県林業試験場」として、試験研究業務を行ってきました。

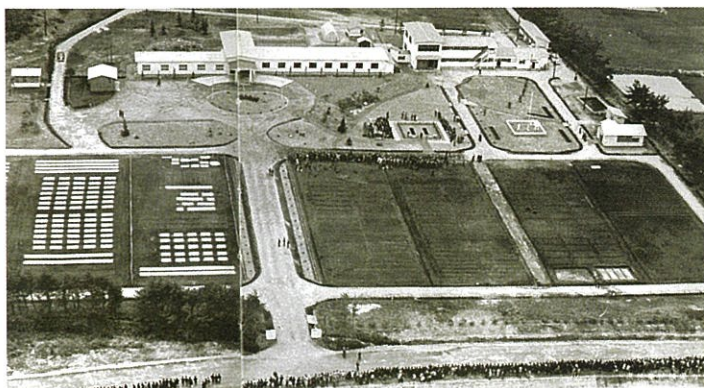
「林業試験場」として半世紀近い歴史を経てきたこともあり、「林業研究所」と改称してから十二年目を迎えた今でも「研究所」を「試験場」、「所長」を「場長」と呼ぶ人が沢山います。



現林業研究所の標柱



旧林業試験場の標柱



御播種行事会場となった当時の林業試験場
(東奥日報社「青森県両陛下と青森県」より)

現在地の平内町に林業試験場の本館が完成したのは昭和三十七年で、翌年の昭和三十八年五月には国土緑化推進委員会（現公益社団法人国土緑化推進機構）と青森県の共催による「植樹行事および国土緑化大会（第十四回全国植樹祭）」が平内町で開催され、林業試験場は御播種行事の会場となり、昭和天皇皇后両陛下がスギとアカマツの種をお手播きされました。



現在のお手播き跡地



お手播きをされる両陛下
(青森県「天皇皇后両陛下をお迎えして」より)

二 林業試験場が平内町に決まったいきさつ

過去の資料をひもとくと、昭和三十五年当時、試験場の候補地は、青森市新城の青森営林署苗圃とされていたようでした。しかし、全国植樹祭を誘致した場合、候補地の近くに植樹祭用地を求めることが難しかったこと、また、業界団体から、津軽と南部の気候を併せ持ち、地質、土壌的にも本県民有林の代表的なものであったことから、平内町付近が良いとの意見もあったこと、全国植樹祭を昭和三十八年に平内町夜越山で開催することが決まったことなどから、現在の場所に林業試験場が設置されることになったようです。

三 現在の林業研究所

現在の林業研究所の研究管理棟と木材利用実験棟は、平成五年三月に完成したもので、既に二十七年を経過し、財務省令の木造建築物の耐用年数である二十四年を超えています。四半世紀の月日を経て、多少古くはなつてきました。木造ならではの自然に馴染んだ林業研究所の名にふさわしい佇まいと趣を感じさせます。

青森県産業技術センターには、工業部門、農林部門、水産部門、食品加工部門の十三の研究がありますが、木



現在の林業研究所の研究管理棟

造の研究所は林業研究所のみであり、訪れる方々からは、今でも木の香りがするとか、落ち着く、古さを感じさせないなどのうれしい感想を聞くことができます。研究所のような特殊な建物の建築は、担当したものでなければ分からない苦労があると思います。このような施設を残してくださいと先輩方に心から敬意を表するとともに、感謝したいと思います。

四 樹木見本園にある十五本のスギの木

林業研究所の敷地内南側に樹木見本園がありますが、その中に樹高二十三メートル、胸高直径二十四センチメートルのスギが十五本あり、下層には青森ヒバが植えられ、複層林状態となっています。

実は、このスギの木こそが、昭和三十八年に昭和天皇がお手播きされた種子から養成した苗木を植栽したもので、お手播きされてから五十七年（筆者と同年）を迎えています。



昭和天皇お手播きのスギの木

平成九年九月に、「つたえよう 世界へ未来へ 青い森」を大会テーマに開催された第二十一回全国育樹祭におけるお手入れ行事で、当時の皇太子同妃殿下であり、現在の天皇皇后両陛下が自動枝打ち機を使って枝打ちをされたのも、このスギの木です。



お手入れされる当時の皇太子同妃殿下
(青森県「第21回全国育樹祭記録誌」より)

なお、このスギの木は、鱈ヶ沢町の矢倉山国有林の天然林から採種された「鱈ヶ沢スギ」との記録がありますので、現在は林木遺伝資源保存林に指定され、巨木を育む森として設定されている「北限の天然杉」から採種したものと考えられます。

五 おわりに

今回、林業会報の原稿執筆にあたり、図書室から古い資料を引っ張り出して、つたない文章でまとめてみました。もしかしたら、思い込みや間違

い、説明不足な部分もあるかもしれませんが、お許しいただければと思います。

また、執筆中に気になる事柄もありましたが、資料が見つからず記述することができませんでした。諸先輩方からの情報をお待ちしていますので、お近くにお越しの際は、是非、林業研究所にお立ち寄りいただければと願っています。

(地独) 青森県産業技術センター

林業研究所長 木村 公樹